

2015年 8月期

BUSINESS REPORT

2014.9.1-2015.8.31 JASDAQ 証券コード2157



上場以来 8期連続の増収および経常増益を達成。
カラオケ、カーブス、温浴の3事業すべてにおいて、次の成長ステージを見据えた経営を推し進めております。 ————— 代表取締役社長 腰高 博



もあり、出店コスト増に伴う減益を余儀なくされました。具体的には、海外事業展開における大きな先行投資が減益の主要因となっております。一方、「カーブス事業」は好調を維持し、売上・利益に大きな貢献を果たしました。「温浴事業」は、各種施策の積み重ねが奏功し、各施設で単月黒字を増やし着実に赤字幅の縮小を行うことができました。

■Q2 「カラオケ事業」における国内戦略の進捗状況はいかがですか？

「カラオケ事業」の国内戦略は、次の成長ステージを目指した取り組みとなってまいりました。これまでの当社の“郊外居抜き型店舗”中心から、首都圏における“都市型駅前・繁華街店舗、建築出店”に大きく軸足を移した出店戦略を推し進めてまいります。

この戦略をスタートした当期、既に首都圏14店舗の出店を果たし、その後も出店が加速しております。期初の計画では“3年以内に50店舗規模”の出店を目標としておりましたが、今は“3年で100店舗規模”の出店が十分に可能であると考えております。当社は、地方のロードサイドという小商圈での経験を積み重ねてきたことで、中小型の店舗でも収益確保がしっかりとできるオペレーション能力を確立してまいりました。そのため、首都圏での出店を重ねるにつれ、「マーケットサイズの大きな首都圏での

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

■Q1 当期の業績は、いかがでしたか？

当期の連結業績は、上場以来 8期連続となる増収および経常増益を達成することができました。「カラオケ事業」では、「まねきねこ」、「ワンカラ」ともに既存店の収益が安定的に推移する中、国内外で積極的な出店攻勢を掛けたこと



出店を成功へと導くことは比較的容易であり、首都圏を主戦場としてきた競合他社よりも優位な出店を推し進めることができる」という自信と確信を深めております。

Q3 「カラオケ事業」における海外戦略についてはいかがですか？

韓国では、“5年で100店舗”という目標を目指し出店を加速しております。当期は5店舗を出店し、当期末現在で9店舗となりました。

シンガポールでは、採算の改善が見込めない2店舗を閉鎖し10店舗体制としておりますが、このうちの1店舗を「K BOX」ブランドから「まねぎねこ」ブランドにリニューアルし、屋号のみならず、内装もオペレーションもすべて国内の「まねぎねこ」の形態に置き換えました。同時に、料金の見直しや飲食メニューの刷新、プロモーションの展開など、消費者の目線に立った施策にも着手しました。これが見事にヒットし、売上が倍増しております。今後は、10店舗のうちの7店舗程度まで「まねぎねこ」ブランドへのリニューアルを進め、シンガポールにおける「まねぎねこ」ブランドの確立を図ってまいります。

海外事業展開のビジネスモデルが完成へと近づいてきたことで、ASEAN全域への拡大の目途が立ってまいりました。

Q4 成長を続けている「カーブス事業」の今後の戦略を教えてください。

躍進を続けてきたカーブスは、当期も127店舗増加し期末現在で1,602店舗となりました。次の目標ラインとして2,000店舗を見据えた出店を推し進めておりますが、今後は、これまでとは異なる成長ステージを歩んでいかなければならないと考えております。

現在、「客層の拡大」に向け、主に二つの方法を模索しております。一つが、適切なサービスをご提供できる会員数の目安とする400名を大きく超える店舗が位置するエリアには、サテライト店を出店し、商圈の深耕と会員サービスの改善を図ってまいります。もう一つが、地域住民の健康増進や健康寿命の延伸を目指す地方自治体と

の連携を深め、新しいスタイルの出店形態を確立していくことです。「カーブス」の出店基準を大幅に下回る商圈サイズの地域でも、自治体と連携することで十分な会員数を獲得し採算ベースに乗せることができる新たなビジネスモデルです。既に神奈川県と鳥取県で成功事例となる店舗が立ち上がっており、今後の展開に期待しております。

Q5 「温浴事業」の収益改善状況は、いかがですか？

温浴事業については、当期を「抜本的な構造改革の年」と位置づけ、事業全体の収支バランスの改善と様々な魅力アップ策に取り組みました。その結果、各施設で単月黒字が次第に増え、着実に収益改善が進んでおります。株主の皆様にはご心配をお掛けしてまいりましたが、次期は年間黒字を実現することができると確信しております。

Q6 最後に、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

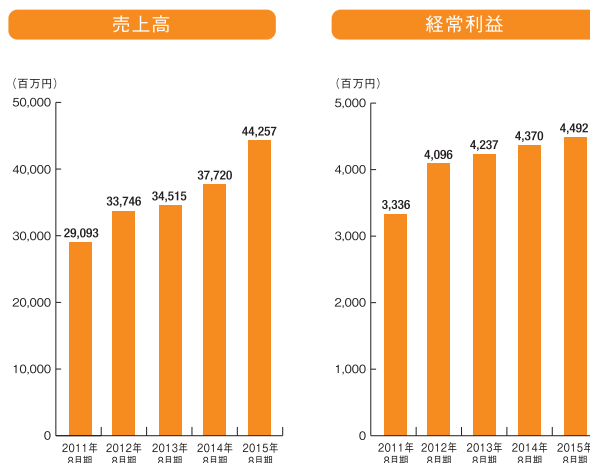
株主の皆様への利益還元につきましては、期初予想の通り、中間15円に期末15円を加え、年間配当30円とさせていただきます。

各事業がいよいよ次の成長ステージを迎えようとしております。全社一丸となって次の成長を実現し、企業価値の最大化に取り組んでまいります。

株主の皆様には、今後とも引き続きご支援を賜りませう、お願い申し上げます。

財務ハイライト

(2014年9月1日～2015年8月31日)



高校生グループのカラオケ料金を0円とする新サービス「ZEROカラ(ゼロカラ)」を開始。

当社グループが展開する全国のカラオケ店舗「カラオケ本舗まねきねこ」、「カラオケムーン・シンシア」の計402店(2015年9月1日現在)では、2人以上の高校生グループを対象に、一定条件*のもと、室料を時間無制限(1オーダー制/混雑時は3時間の室料無料)で「0円」にする新サービスを、9月1日より開始しました。

これは、近年、カラオケを楽しむ人が減少傾向にあるという調査結果(総務省統計局「平成23年社会生活基本調査」)も踏まえたサービスであり、将来の顧客予備軍である高校生にカラオケを楽しむ機会を提供することで、「カラオケファン」「まねきねこファン」を育成し、健全かつ健康なレジャーであるカラオケ文化の成長にも資することを目指します。

*「ZEROカラ」の詳細なご利用条件については、当社ホームページまたは当社各店舗にてご確認ください。



地域社会の人々の健康に貢献するために…。カーブスジャパンが地方自治体の事業に参画。

全国1,600を超える店舗を展開するカーブスジャパンは、手軽に誰でも何歳でもできる独自の運動プログラムで、会員の皆様美しく健やかな毎日を過ごせるようお手伝いをし、健康寿命の延伸に貢献することを目指しています。

2015年に入り、同社の理念と実績に共感いただいた地方自治体と連携するケースが出てきました。鳥取県では、大山町・カーブス・鳥取大学等が連携し、街の保健事業として「カーブス」店舗をオープン。また、神奈川県では、食・運動・社会参加の「未病を治す」取り組みの一環として、手軽に運動や健康チェックなどを継続的に体験できる「未病センター」の設置を推進しており、「未病センターカーブス 小田原」が第1号に認証され、6月20日にオープンしました。



▲「未病センターカーブス 小田原」(神奈川県/2015年6月20日開設)

事業セグメントの状況

Segment Information

カラオケ事業

当連結会計年度末

売上高237億94百万円

国内における首都圏集中出店、韓国における積極的な直営出店、シンガポールにおけるスクラップアンドビルドなど、国内外で積極的な取り組みを行った結果、売上高は237億94百万円(前年同期比19.8%増)、セグメント利益は12億3百万円(同23.8%減)となりました。

温浴事業

当連結会計年度末

売上高14億95百万円

カラオケ事業で培ってきた様々なノウハウを活かしながら、引き続き施設経営の再生に取り組んだ結果、売上高は14億95百万円(前年同期比2.8%減)、セグメント損失は89百万円(同1億49百万円損失額減少)となりました。

不動産管理事業

当連結会計年度末

売上高3億18百万円

事業セグメント別売上高構成比

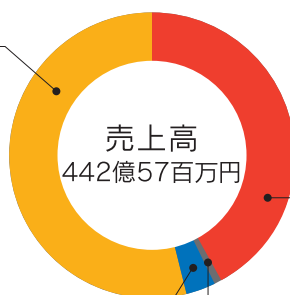
カラオケ事業	53.8%
カーブス事業	42.1%
温浴事業	3.4%
不動産管理事業	0.7%

カーブス事業

当連結会計年度末

売上高186億49百万円

各種サービスの革新と会員サポートや店舗網の充実に努めた結果、店舗数と会員数の増加に加え、会員向け物販売上も伸び、売上高は186億49百万円(前年同期比16.4%増)、セグメント利益は38億56百万円(同17.5%増)となりました。



株主優待制度については
ホームページをご覧ください。

<http://www.koshidakaholdings.co.jp/ir/stockholder.html>

株主優待制度の内容を変更。 株主優待券に加え、「カタログギフト」も贈呈。

当社は、株主の皆様当社ファンになっていただきたい、当社へのご支援の感謝の気持ちとともに長期的な安定株主になっていただきたい、という願いを込めて、株主優待制度を設け、これまでも充実に向けた見直しを行ってまいりました。

このたび、これまで当社に寄せられた株主様からのご意見も踏まえて、株主優待制度の内容を変更させていただきました。2015年8月31日現在の株主名簿に記載または記録された1単元(100株)以上を保有されている株主様より適用させていただきます。

変更内容は、当社の店舗・施設の利用が可能な株主優待券に加え、新たに、当社の店舗・施設を利用しにくい地域にお住いの株主様にもお楽しみいただけるよう、「カタログギフト」も贈呈いたします。

■変更後の優待内容

所有株式数	優待内容
100株以上 1,000株未満	5,000円相当の株主優待券* +3,000円相当のカタログギフト
1,000株以上	5,000円相当の株主優待券* +5,000円相当のカタログギフト

*株主優待券は、日本全国のカラオケ本舗「まねきねこ」、ひとりカラオケ専門店「ワンカラ」、温浴施設「まねきの湯」(3店舗)でご利用いただけます。



▲「株主優待カタログギフト」
選り抜かれたブランド、お気に入りが見つかる幅広いジャンル、笑顔を誘う本物のおいしさなど、2,000点を超えるアイテムからお選びいただけます。
*画像はサンプルです。変更となる場合がございますのでご了承ください。

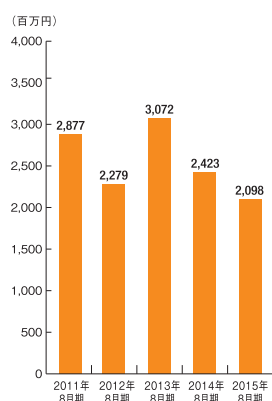
Financial Highlights

当期連結決算 のポイント

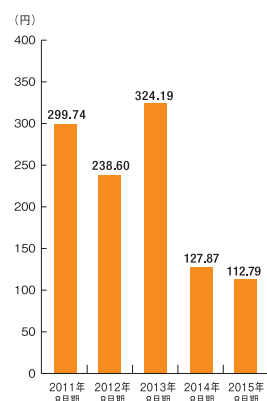
カラオケ事業の売上成長、カーブス事業の更なる躍進、
温浴事業の回復により増収および経常増益。

売上高は442億57百万円(前年同期比17.3%増)、経常利益は44億92百万円(同2.8%増)となりました。また、当期純利益は、20億98百万円(同13.4%減)となりました。

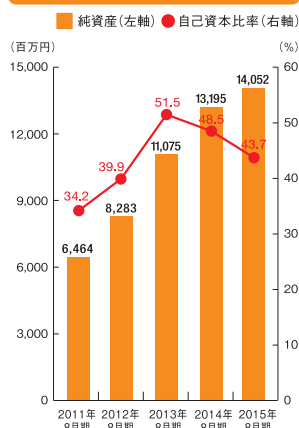
当期純利益



1株当たり当期純利益



純資産 / 自己資本比率



▶▶▶ ポイントの解説

1 売上高について

カラオケ事業では首都圏への集中出店やM&Aなどにより期末店舗数が前期末比46店舗増加し、カーブス事業でも同127店舗増加(会員数70千人増加)し、これらが増収を牽引しました。

2 利益について

カラオケ事業は海外を中心とした先行投資が利益を押し下げたものの、カーブス事業のセグメント利益が引き続き順調に拡大しました。また、再生に取り組んでいる温浴事業は、前年同期に比べ損失額を大幅に減少させることができました。これらの結果、営業利益は前年同期比2.8%増となりました。

(注)2011年9月1日付で1:400、2014年9月1日付で1:2の株式分割を実施しております。

キーワードで紹介! コシダカの経営哲学

全員経営

「企業は人なり」と言いますが、当社にとっても従業員は“宝”であり、大切な“財産”です。経営陣がどんなに革新的な戦略を立案したとしても、それを現場で実践する従業員のモチベーションが低ければ、成功へ導くことはできません。会社が目指すビジョンは、すべての



▲社員の発案したラーメンバトルが売上に貢献

役員・従業員がベクトルを合わせ積極的に取り組み続けてこそ、実現可能となります。そうした認識のもと、私は、「全員経営」という言葉を使って、すべての役員・従業員の皆さんに対して「当社を“自分の会社”と捉え、常に当事者意識を持って自ら考え判断し、お客様に喜んでいただくための施策を実践していこう」ということを伝え続けています。

従業員による「全員経営」の取り組みは、各事業の様々な現場で新たな実を結び、そうした個々の積み重ねが会社の業績伸長という大きな果実につながっています。

最近の事例を挙げると、温浴事業の店舗の一つ「郡山湯処 まねきの湯」(福島県)において、従業員の発案で企画・実施した「ラーメンバトル」が大ヒットし、来店促進と客単価アップに貢献しました。ご当地ラーメン数種類をメニューに加え、ご注文数で勝敗を競うゲーム性のある展開が好評を博し、ご来店者の3割以上の方にラーメンをご注文いただいた勘定になるほどの賑わいぶりでした。

VOICE

現場社員の声

お客様のニーズや変化に対応し続け、ひとりカラオケ専門店「ワンカラ」だからできる、新しいカラオケ文化の創造と拡大を目指して…



ワンカラ営業部 栗原 正

ひとりカラオケ専門店「ワンカラ」がオープンしたのは2011年11月、まもなく5年目を迎えようとしております。近年の“おひとりさまブーム”も背景としながら、「ワンカラ」の会員数はおかげさまで33万人超まで拡大してまいりました。ひとりでカラオケを楽しむことへの抵抗感も減り、それに合わせて当社は環境整備・サービスの見直しを図り、売上也好調に推移しております。これも当社が日本のカラオケ文化に変革と革新をもたらした結果だと自負しております。現在は首都圏中心に店舗展開しておりますが、多くのお客様からの出店要請に加え、日本のカラオケ文化に注目する外国人観光客も急増しており、更なる店舗拡大と新サービス開発が私たちの使命であると思っております。

そうした中、2015年6月に買収した当社子会社(株)イングリッシュアイランドとの連携により、9月から「ワンカラ英会話」を開始しました。カラオケ専用のお部屋でオンライン英会話を実施するサービスは、業界でも初の試みです。ワンカラの強みでもある個室・防音設備を活かし、自宅での英会話レッスンが困難な方、仕事帰りの時間を有効活用したい方などにご利用いただいております。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けてグローバル化が加速し、英会話の必要性も更に高まります。このサービスを活性化させ、お客様のニーズにこたえていきたいと思っております。私たちはこれからも変革と革新をリードし、新しいカラオケ文化の創造と拡大を図ってまいります。



カーブス事業



温浴事業



■ 会社の概要 (2015年8月31日現在)

会社名 株式会社コシダカホールディングス
 英訳名 KOSHIDAKA HOLDINGS Co., LTD.
 設立年月日 1967年3月31日
 東京本社 東京都港区浜松町二丁目4-1
 世界貿易センタービルディング23階
 前橋本社 群馬県前橋市大友町一丁目5-1
 資本金 4億9,360万円
 事業内容 カラオケ事業
 (店舗数: 国内412店舗)
 カーブス事業
 (加盟店舗数: 1,602店舗)
 温浴事業
 (店舗数: 5店舗)
 従業員数 グループ従業員 3,088名
 (正社員 872名、パート・アルバイト 2,216名)
 パート・アルバイトは1日8時間換算人数

■ 役員 (2015年8月31日現在)

代表取締役社長 腰高 博 常勤監査役 西 智彦
 専務取締役 腰高 修 監査役 寺石 雅英
 常務取締役 朝倉 一博 監査役 森内 茂之
 常務取締役 腰高 美和子
 常務取締役 土井 義人

■ 大株主 (上位5名)

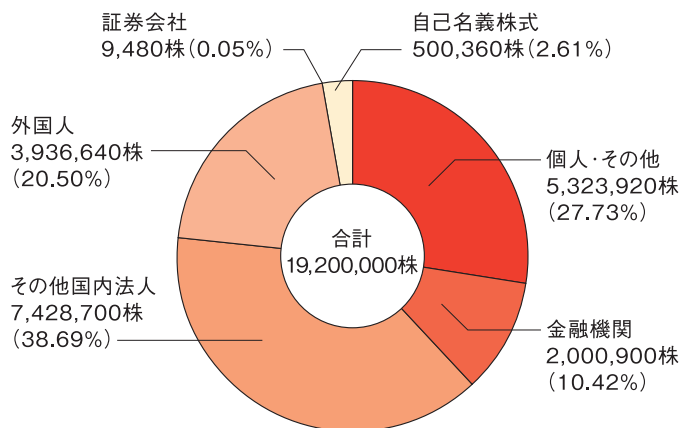
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社ヨウザン	5,832,000	30.38
腰高 博	2,310,000	12.03
株式会社アイエムオー	1,366,000	7.11
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	717,300	3.74
ビービーエイチ フィデリティ ロー プライズド ストック ファンド	655,180	3.41

■ 株式の状況 (2015年8月31日現在)

発行可能株式総数 76,800,000株
 発行済株式の総数 19,200,000株
 株主数 6,836名

(注) 2011年9月1日付で1:400、2014年9月1日付で1:2の株式分割を実施しております。

■ 所有者別株式分布状況 (2015年8月31日現在)



■ 株主メモ (2015年8月31日現在)

事業年度 毎年9月1日から翌年8月31日まで
 定時株主総会 毎年11月下旬
 基準日
 定時株主総会・期末配当 毎年8月31日
 中間配当 毎年2月末日
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社
 特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社
 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 (電話照会先) 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
 住所変更のお申出先について 株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
 なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
 未払配当金の支払いについて 株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
 「配当金計算書」について 配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。
 ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。
 ※確定申告をされる株主様は、大切に保管ください。

当社に関する詳しい情報は、ホームページをご覧ください。

<http://www.koshidakaholdings.co.jp/>



株式会社コシダカホールディングス

〒105-6123
 東京都港区浜松町二丁目4-1
 電話 03-6403-5710(代) Fax 03-6403-5727



環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。